

追悼の辞

弁護士 津田 禎三先生 有り難うございました

軍隊、大学の後輩 小林 茂夫 (16期)

津田先生は、大正9年10月29日生まれ、父上は弁護士であった。

西天満小学校 旧制北野中学 中央大学予科・法学部、法学部2回生で海軍へ召集され、武山海兵団、学生隊、海軍予備学生となり、短期間で海軍少尉に任官した。同期に俳優の西村 晃、茶道の千宗室さん、がおられる。

横須賀の海軍航海学校で訓練、卒業と同時に少尉任官。小生も、これにあこがれていたが、直前終戦となった。

先生は、駆逐艦「梅」航海士を命ぜられて乗艦、当時「梅」はフィリピンに停泊中で、先生は、当時海軍自慢の2式飛行艇に乗り込み、横浜を後にしたが、翌日、台湾の東港で着水ミス、海面にたたきつけられて舞い上がった飛行艇は、真っ二つに割けて、海に突っ込んだ。

先生は、飛行艇の割れ目から放り出され、海面へ一直線落下、その途中で、気を失った。ただ立ったままの姿勢で入水したために怪我ひとつなく九死に一生を得られた。

次なる受難は、高雄での話、空襲に遭い、あわてて逃げ込んだ民家に、敵の爆弾が命中、建物は全壊したが、悪運強くかすり傷一つ負わなかった。

今度は、駆逐艦「梅」に乗って早朝未明に高雄の軍港を出港し、バシー海峡を有名なアパリ作戦で南下中、右舷はるか水平線上に味方の護衛機3機の黒い影が見えた。

先生は護衛機がきてくれたか、とっていたら、これが敵の爆撃機で、日本の暗号を解読し、日本機に先回りして、徹底的に「梅」と護衛艦を攻撃した。



津田禎三氏

大正9年10月29日生

15期

平成27年11月24日逝去

享年96

先生は、このときの戦闘で、右下腿貫通爆弾々片創複雑骨折 左右大腿盲管爆弾々片創の障害を受けた。

先生は死ぬまで左右の大腿に、破片が7つ残っていた。

高砂丸という病院船で護送され、別府の海軍病院に収用された先生は、順調に回復して東京へ戻り、海軍を退役して大学に復学された。

先生は、戦争に行く直前に結婚をしておられ、男は、女房子供を養うために何か仕事をしなければならぬ。

荻窪の駅前で、戦友の村山慶吉と果物屋をやったり、大阪に戻り、役人をしたり商売をしたりしたが、うまくいかず、ついに自分の仕事は弁護士しかないと思ひ至り、35歳で弁護士を志すに至った。

それから司法試験に5回失敗して6回目に合格15期、まだ41歳であった。

この点、16期で37歳であった小生より、まだ上手であった。

弁護士開業後、いままでの体験が、必ず生きてくることの見本のように、いろいろの事案を手掛けられ、これを95歳まで実証して、平成27年11月24日に悠々とこの世を去られたのであります。

津さん、こばやんが頼まれて、こんなこと書いてん。

笑うて読んでいてな。